

岩手県定置網におけるサバ類の漁獲動向について

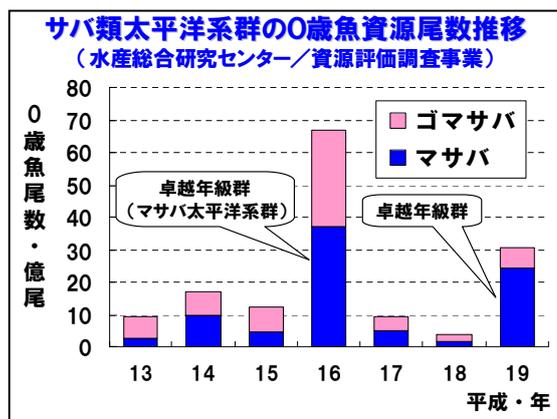
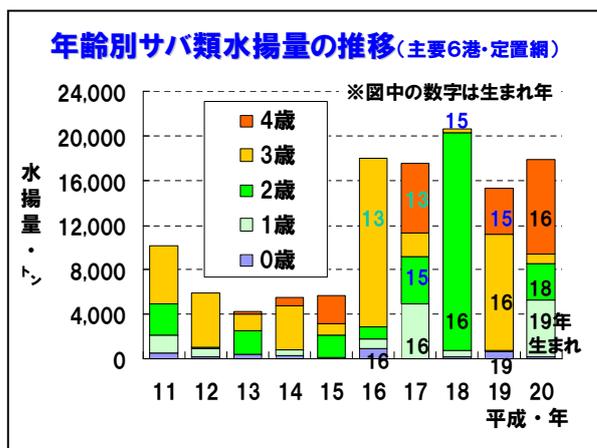
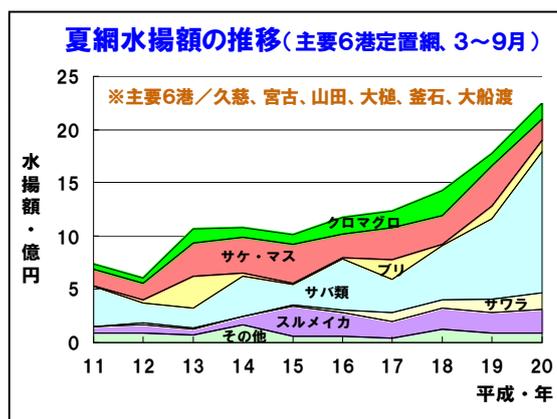
ねらい:	近年夏季の定置網漁業において重要度が高まっているサバ類について、漁獲動向の整理と年齢解析を行い、近年の好漁要因を把握する。
成果の特徴:	<ul style="list-style-type: none"> サバ類の水揚量は平成（以下 元号略）16年以降、1万5千トンから2万トンの間で好調に推移した。また、水揚額は15年までは2億円前後（夏網のうち、3割前後）だったが、20年には13億円（同、6割）まで増加した（右上図）。 盛漁月は経年的に早期化する傾向にあった（15～16年…9月、17～18年…8月、19～20年…7月）。また、19、20年は、盛漁期が短期集中化する傾向にあった。 18年以降の好漁は、16年、19年生まれ（卓越年級群）に支えられたと推察できた。 16、19年生まれ以外の資源加入量は少なく、16年生まれの生残も少ないと推定されるため、21年漁期は19年生まれの2歳魚が主な漁獲対象と見込まれた。
成果の活用面:	水産庁・水産総合研究センターが発表する長期漁海況予報とあわせて、今後のサバ類の来遊予想などに活用できる。

[具体的データ]

本県定置網の漁獲量を平成11年～20年にかけて年齢解析したところ、13、15、16、19年生まれ

がまとまっていた（左下図）。特に、18年には16年生まれの2歳魚が水揚げの殆どを占め、特徴的な年齢構成であった。また、20年には16年生まれの4歳魚の他に、19年生まれの1歳魚も多く水揚げされており、漁獲の対象が16年生まれから19年生まれに変化したことが推察された。なお、16年生まれ、19年生まれのマサバ太平洋系群は、「卓越年級群」とされており（右下図）、近年の本県におけるサバ類の好漁は、これらを主体とした加入尾数の増加によって支えられたと推察された。

※卓越年級群：他の年に比べて特に多い加入量を持つ年級群（相対的な基準）



担当者	漁業資源部 専門研究員 田中大喜	TEL0193-26-7915	FAX0193-26-7920
連絡先	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田第3地割75番3号		
	ホームページ http://www.pref.iwate.jp/~hp5507/		